



「今昔マップで昔の地形を知ろう」

近年の大雨による土砂災害が頻発しています。7月3日の静岡県熱海市伊豆山の土砂災害、8月14日から17日にかけての九州・中国地方の雨に依る災害は未だ記憶に新しく、国土交通省によると令和2年1319件、令和元年1996件、平成30年3459件の土砂災害が発生しているそうです。

近年の記録的短時間大雨は地球温暖化によるものと言われてしていますが、気象庁津地方気象台の観測によると年間平均気温が、津市で過去100年間で1.6℃ 尾鷲市で50年間で1.1℃上昇しており、真夏日が年間約40日増加、冬日が20日減少し、津市の桜の開花日が50年で約6日早くなっているそうです。

更に土砂災害の発生原因は、日本は7割の山地で山の斜面や谷の出口（急傾斜地）に多くの人が住んでる事、雨量が世界に比べてはるかに多い事、脆い地質の山が多い事、地震が多い事等が有りますが、当桜地区でも該当する所は有ります。昭和46年桜台・昭和62年桜花台・平成2年桜新町に大規模団地が出来、昔山だった所を切り土し、谷を埋立て宅地にした土地が沢山有ります。現在住んでいる場所が昔はどのような地形だったのか、数十年前はどのような姿していたのか、地域の経歴地図を通して過去の地形図をみる事が大切です。

もちろん、自分達の土地の過去を知ったからと言って、災害を防ぐとか回避する事は出来ませんが、成り立ちを知っておけば土砂災害や南海トラフ地震による災害に対して心構えや準備をしておく事が出来ます。

そこでもしインターネットの環境が整っている方は、埼玉大学教育学部 谷謙二研究室が開発した「今昔マップ」を検索してみて下さい。今と昔の地図を左右に並べて比較する事が出来ます。拡大して自宅周辺の地形も御覧いただけます。



検 索

今昔マップ

桜地区のイメージ

1974-78年

1961-64年



